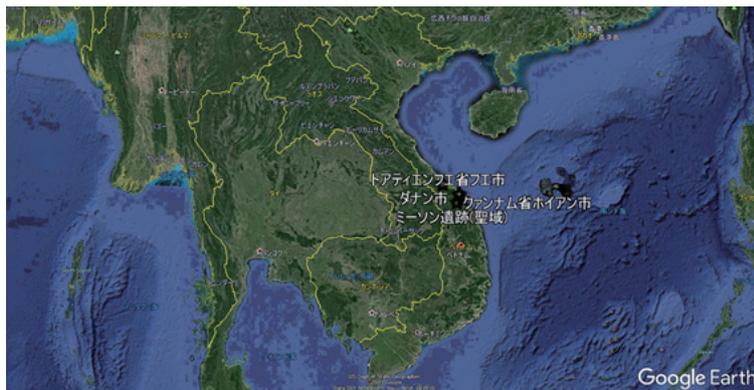


# チャーキュウ遺跡出土遺物の調査

大谷莉紗、岡本翼、谷本樹、西江智哉、難波柚花 (岡山理科大学社会情報学科3年)



ベトナムと日本の位置関係



ベトナムの地図と調査地の位置



サーフィン文化・チャンパ博物館にて説明を受けている様子



人面瓦の計測方法を教えて頂いている様子

2017年9月1日～7日、私たちは山形眞理子教授・徳澤啓一教授の指導のもと、ベトナムで調査研修を実施しました。調査地はベトナム中部クアンナム省チャーキュウ遺跡で、チャンパ王国の都とされる遺跡です。このポスターではチャーキュウ遺跡から出土した人面瓦の調査について報告します。

9月5・6日の両日、チャーキュウ遺跡で調査を行いました。まず、遺跡の横にあるサーフィン文化・チャンパ博物館を訪れました。サーフィン文化・チャンパ博物館には、甕棺・壺などの土器・ネックレスとイヤリング・銅鏡・瓦(丸瓦、平瓦、人面瓦)などの出土物が展示されています。この2日間はチャーキュウ教会にて山形教授が研究されている人面瓦の調査を行う目的があり、またそれが今回ゼミのみならず(西江君、岡本君、大谷さん、難波さん、谷本)の研修課題でもありました。博物館ではそのための準備として、実際の資料を見ながら、山形教授が用意して下さった人面瓦の計測方法が書かれている用紙を基に調査方法を確認しました。チャーキュウ教会には神父が収集したチャーキュウ遺跡の遺物コレクションがあり、今回はその中の人面瓦を調査することが主な目的でした。人面瓦の調査項目は0～12【0:注記ナンバーの記入、1:瓦当直径、2:内区直径、3:内区周縁幅、4:外区内縁幅、5:外区外縁幅、6:外区外縁高、7:外区外縁厚、8:瓦当厚(最大)、9:瓦当厚(中間の厚さ)10:丸瓦部厚、11:丸瓦部残存長、12:瓦当部色調】の13項目があり、調査道具にはキャリパー、ディバイダー、マンセル土色帳など、初めて見聞きする道具が数多くありました。計測ではまず始めに、徳澤教授に上記の0～12の項目の計りかたを一項目ごとに教えて頂きました。その後、0～12の項目を徳澤教授を含めた5名でそれぞれ担当することになりました(徳澤教授1～4・難波さん5～7・谷本8～9・西江君10～11・大谷さん12)。今回計測した資料は50点あまりで、最初は難しく感じたのですが、次第にこなせるようになると計測に楽しみを覚えました。



それぞれ自分なりに人面瓦の観察に取り組む

計測を終了すると、残っていた作業(人面瓦の写真撮影、観察、拓本)に取り組むことになりました。西江君、岡本君、大谷さん、難波さんの4人が人面瓦の写真撮影補助と観察に取り組む中、私は拓本をとる作業を体験しました。拓本は中国が始まりの地で、乾拓と湿拓の2つの方法があります。乾拓は乾いた紙を目的物に当てて釣鐘墨などでこするようにして写し取る方法で、湿拓は画仙紙を目的物の上に当てて水で湿らせながら、文字や文様に張り付けた紙が生乾きの間に油墨などを浸み込ませた「たんぼ」で叩くようにして写し取る方法です。私が今回行ったのは湿拓でした。実際に湿拓を体験してみると途中で紙が破れたり、墨の濃さが均一では無くバラバラであるなど、実際に体験することで拓本の難しさを肌で感じる事ができました。この2日間で、サーフィン文化・チャンパ博物館とチャーキュウ教会の所蔵資料のうち、合わせて60個もの人面瓦を調査することができました。(担当：I15V047 谷本 樹)



苦戦しながら拓本をとっている様子

9月4日にはミーソン遺跡に行きました。ミーソン遺跡とはベトナム中部のクアンナム省にある遺跡で、ユネスコ世界遺産に登録されています。チャーキュウ遺跡から車で40分くらいの位置にあります。チャンパ王国の時代にヒンドゥー教シヴァ派の聖地であったそうです。チャーキュウ遺跡の人面瓦と同じ種類の人面瓦が出土しているため、その比較研究のために、最初にその瓦が展示されている遺跡博物館を訪れて、人面瓦の観察を行いました。

ミーソン遺跡は20世紀初頭にフランス人によって発見された遺跡です。最初にフランス極東学院(EFEO)により修復、補強されました。ベトナム戦争でアメリカ軍・B-52の爆撃を受け、遺跡が大幅に破壊されました。ベトナム戦争時の爆撃によるダメージは大きく、その爪痕は展示されている発掘品にも見ることができました。ミーソン遺跡はチャンパ王国の聖域で、ヒンドゥー寺院の寺院建築群が広がっています。その特徴はチャンパ王国の人々が造った祠堂です。なぜなら祠堂はレンガを重ねて積み上げた建築様式で支柱を必要としないからです。ミーソン遺跡は集合体ごとに区分けされていて、グループAからグループIIまであります。至る所にヒンドゥー特有の文様やレリーフが刻まれていて、男性器と女性器の象徴であるリングとヨニを見ることができました。カンボジアの数々のクメール遺跡同様、ヒンドゥー教文化を受容していたチャンパの寺院だけに、ヒンドゥーの神様の像やサンスクリット文字の碑文などがあちこちに残されています。また、民族舞踊に身を包んだ男女がチャムダンスを披露したショーを見ました。特に管楽器を吹き鳴らすところで、息継ぎが無く最後まで吹き続けた場面は凄かったです。鼻で吸いながら口から吐き出す方法を会得しているのかと不思議に思いました。



ミーソン遺跡で集合写真を撮影



晴天のミーソン遺跡

ミーソン遺跡に行った感想は、ベトナム戦争で破壊されたために、銃弾の跡、爆弾を落とされた跡を見た時はびっくりしました。神秘的な雰囲気、チャンパ王国の技術力の高さ、戦争の悲惨さを生々しく感じることができる遺跡でした。(担当：I15V063 西江 智哉)